

# 南小だより

[minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp](mailto:minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp)

令和4年1月7日

1月号

さいたま市立南浦和小学校  
電話 048-861-3781



## イメージカラー

校長 小野 圭司

新年を迎えたことを確かめるために元日の早朝に近くの河原へ初日の出を見に行った際、一緒に行った家内が日の出の瞬間に急に太陽に向かって拝み始めたため、私もつられて拝みました。毎年お参りの時に始めに願うのは家族の健康ですが、この時にはどういいうわけか「コロナの収束」を一番に願っていました。コロナ禍による長く続いている何とも言えない暗い雰囲気、初日の出という崇高な場面ならば叶えてくれるのではないかと期待して願ったのかも知れません。

この年末年始には色を意識することが多くありました。例えば、紅白歌合戦のテーマは「カラフル」、文頭で話題とした初日の出は「オレンジ」、箱根駅伝の優勝校である青山学院大学のユニフォームや袴は「フレッシュグリーン」です。色は私たちを元気にさせたり、その場面の雰囲気を感じさせたりなどしてくれます。色の効用は計り知れないものです。特に青山学院大学の今シーズンのテーマは、「個の糸紡いで、織り成せ！深緑の袴」としたそうです。いつもは「フレッシュグリーン」の「新緑」だが、チームメイト一人ひとりの色が合わさるとより深みのある緑になるため「深緑」にしたとのこと。「なるほど、色は目標にも成り得るのか」と思いました。本校の教育目標は「よく学ぶ子 心豊かな子 たくましい子」です。この目標を達成するために、色を上手く使えるのではないかと考えてしまいました。

さて、147年の歴史と伝統のある本校のイメージカラーは何色でしょうか。実は以前、教職員に本校のイメージカラーを聞いたことがありました。その時には、シンボルツリーのけやきの「緑」、落ち着いている学校なので「紺」、学校名の「南」が太陽をイメージするため「オレンジ」、南区の色の「黄」などが挙がりました。その色を見れば、本校のよさや目指す方向性などが見えてくるようなになればいいのではないかと思います。また、「不易と流行」という言葉がある通り、ずっと同じイメージカラーであるとも限りません。「今はこの色」とイメージしていたものが5年後には変わっているかも知れません。先述の青山学院大学の「新緑から深緑へ」ではありませんが、その時その時の意味合いを込めたイメージカラーも素敵だなと思います。

改めまして、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

